月刊 やちまなこ

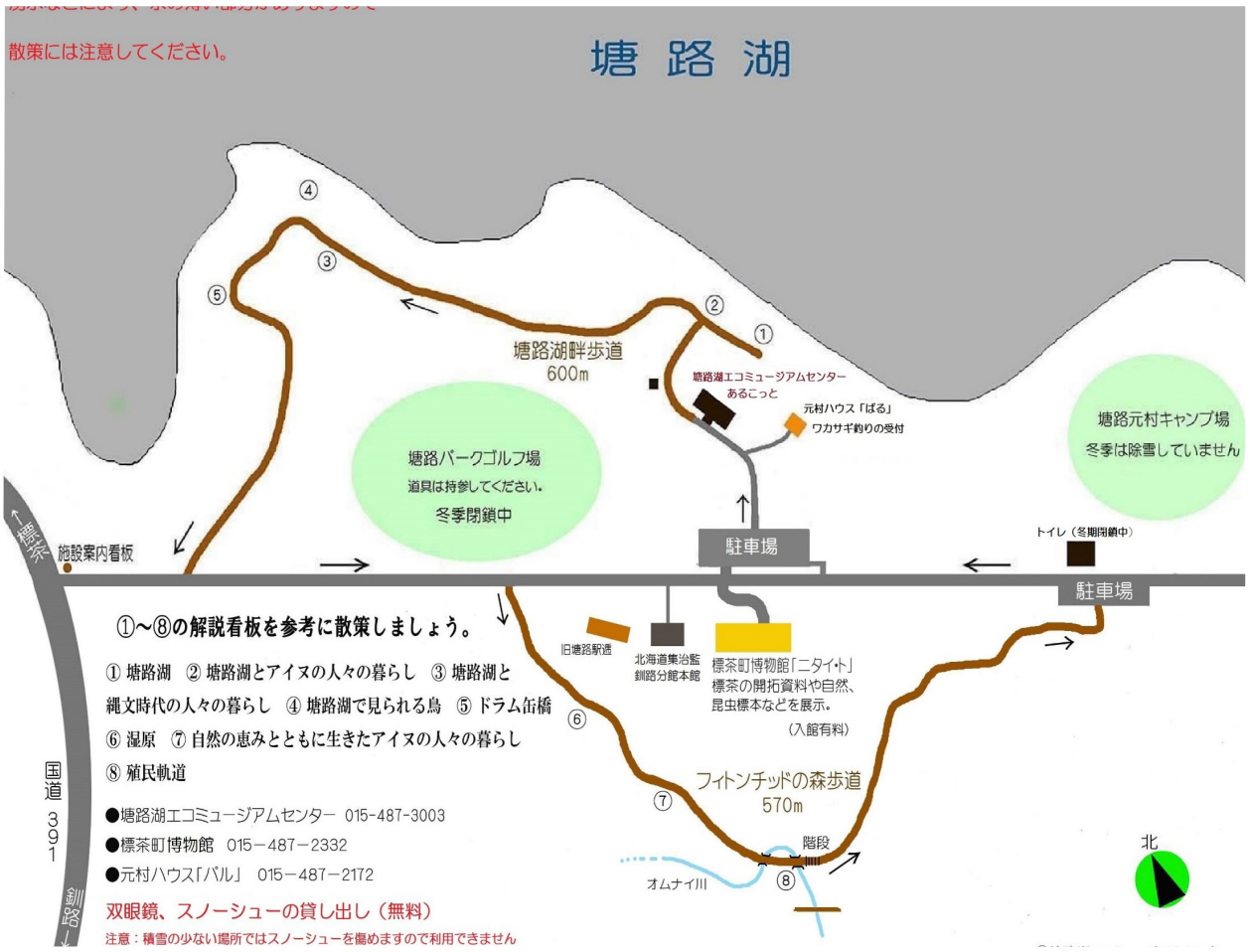
2026. 1 .15 発行
No.338
1 月号

釧路湿原国立公園　塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

　厳冬期に入った釧路湿原は、音を失った銀世界となった。
凍てつく空気が大地を覆い、小川は薄い氷の下に流れを閉じ込め、
風だけが雪原を静かに渡っていく。

　凍った小川には、タンチョウの番いが寄り添っていた。番いの
雌の右脚には、古い標識リングがついており、その番号が示すのは、
今年の夏で 32 歳。人間に置き換えると 80 ～ 90 歳にもなる。
　この老夫婦は給餌場に姿を見せることがほとんどないという。
水辺の氷を脚で器用に割り、氷下から食べ物を見つけ食べていた。

　寿命とされる時を越えてなお、彼女は昨冬、一羽の立派な幼鳥
を育て上げた。今年の夏も子育てをするのか、今から楽しみである。



塘路フィールドノート【12/15～1/14】

【野鳥】

厳冬期を迎えた釧路湿原。大雪の降ったあとでも、除雪で顔を出した路肩などを探すと、草の種などに執着している多くの小鳥を確認できた。冬鳥たついで賑わう季節。

ダイサギ（シラルトロ湖）
普段は首をＳ字に曲げて飛ぶことが多いが、威嚇の時には伸ばして飛ぶようだ。サギ科

ヤマゲラ（茅沼）
カラマツの林に現れた雄。ウグイス色の背中と灰色の腹面が特徴。キツツキ科

ヤマセミ（塘路湖畔）
湖にはり出した枝から、小魚を探していた。今季はよく見掛けた野鳥。カワセミ科

ハギマシコ（クチョロ線）
海岸近くで見掛ける事の多い小鳥。今季は飛来数が多く、山側の林道でも見掛けた。アトリ科

ミヤマホオジロ（クチョロ線）
少し珍しい小鳥。路肩の草叢で懸命に草の種などを探して食べていた。ホオジロ科

オオワシ（阿歴内地区）
厳冬期の到来を告げるワシ。青空を悠然と見下ろして飛んでいた。タカ科

ハイイロチュウヒ（クチョロ線）
冬鳥。夕暮れ時に金色の葦原の上を滑空しながら、地表に現れる小動物を探していた。タカ科

カケス（阿歴内）
亜種ミヤマカケス。地表で餌を探していたが、普段は狡猾で人の気配を嫌う印象。カラス科

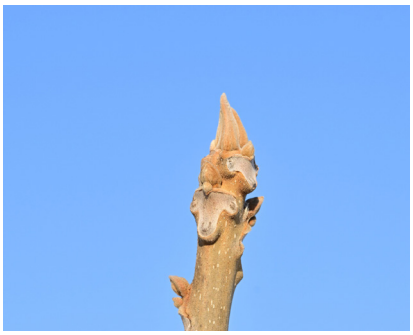
エナガ（シラルトロ湖）
群れが目立つ季節がやってきた。「雪の妖精」と呼ばれる人気の野鳥。エナガ科

【植物・菌類】

寒く厳しい冬は植物たちにとって、春に新緑を輝かせるための準備の季節。彩りの少ない季節ではあるが、その冬芽の中では、着実に春の準備が成されている。華やかな花や新緑の季節が待ち遠しい。

エゾヤマザクラ冬芽（蝦夷山桜）
尖った卵形の冬芽が特徴。これから春に向けてゆっくりと膨らんでいく。バラ科

アカエゾマツの球果（赤蝦夷松）
長さ 15 ～ 20 ｃｍの大きな球果を落とす。乾燥すると種を開き拡散する。マツ科



オニグルミ冬芽（鬼胡桃）
多くの葉を葉脈で支えるため、根本が太くなる。秋に落葉すると付け根の形がわかる。クルミ科

カラマツ球果（落葉松・唐松）
長さ２～３ｃｍの小さな松ぼっくりをつける。他のマツより実らせる数も多い。マツ科

ミズナラの冬芽（水楢）
ミズナの冬芽は陽当たりの良い枝ほど大きな冬芽がつく。冬鳥たちの命をつなぐ食糧。ブナ科

ハルニレの冬芽（春楡）
ハルニレの若枝や冬芽は微毛に覆われており、無毛のオヒョウと区別ができる。ニレ科

【哺乳類・昆虫】

12 月中旬に降った大雪は食べるものを雪の下に隠してしまった。動物たちは生きるために懸命に食べ物を探して彷徨う。昆虫は殆どが越冬に入ったが、この時期にだけ雪上を歩くものも存在する。

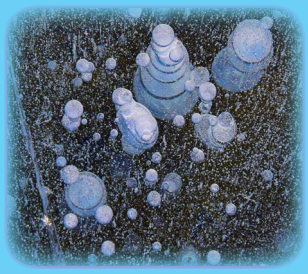
エゾシカ（コッタロ湿原）
大雪にも負けず、湿原の中を少ない食べ物を探して彷徨う。シカ科

タヌキ（阿歴内）
珍しく昼間に現れたエゾタヌキ。よく見るとダニに喰われて眼が開かないようだ。イヌ科

クモガタガガンボの一種♀（蝶の森）
積雪期になると雪上を歩く翅の退化した昆虫。クモのように見える事が名前の由来。ガガンボ科

◎釧路湿原で見つけた氷の造形　2026 年

氷丘脈
（御神渡り）



アイスバブル

小川の薄氷

氷筍

２月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

シラルトロ湖・蝶の森スキーハイク

［日　時］　２月７日（土）１０時～１２時

［定　員・参加料］　１０名　無料

［開催場所］　シラルトロ湖・蝶の森周辺

◎申込・問合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

サルボ～シラルトロ湖スノーシューハイク

［日　時］　２月 21 日（土）１０時～１３時

［定　員・参加料］　１０名　無料

［開催場所］　サルボ展望台・シラルトロ湖南岸周辺

◎申込・問合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原の裏山でスノーシューハイク

［日　時］　２月 15 日（日）１０時～１２時

［定　員・参加料］　１０名　無料

［開催場所］　温根内ビジターセンター

◎申込・問合わせは温根内ビジターセンターまで

（0154-65-2323）

◆日出・日入時間　12/15(6:48,15:47). 12/30(6:55,15:55).1/14(6:53,16:11)

～指導員のひとり言～

■釧路湿原についてのニュースを目にすることが、以前より増えた気がする。開発の話や、環境の変化、気候のこと。どれも特別に新しい話ではないのに、並べて聞くと少し落ち着かない。

湿原は、いつも同じように見える。季節が巡り、風が吹き、また雪が積もる。けれど、その静けさの下で何が変わっているのかは、外からではわかりにくい。

この場所がこれからも同じ姿であり続けるのかどうか、それはきっと、遠くの誰かではなく、今を生きる側の選択に重なっているのだろう。そんなことを、写真を並べながら考えていた。

釧路湿原国立公園
塘路湖エコミュージアムセンター　あるこっと
〒 088-2264　北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL：015-487-3003　　FAX：015-487-3004
E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp
インスタグラム　torokoemc

開館時間：10：00 ～ 16：00
（４～ 10 月：17：00 まで）
休館日：毎週水曜日　12 月 29 日～ 1 月 3 日
入館無料